



## 岡山県の農家民宿先進地視察会

令和3年11月25日(木曜日)～26日(金曜日)に岡山県吉備中央町に赴き、農林漁家民宿等を経営されている3人の方にお話を伺いました。



### 岡山農家民宿先進地視察会① 農家民宿「やまと」

#### Q1 農林漁家民宿を始めたきっかけはなんですか？

うちは、2015年に農家民宿を開業しました。きっかけは『吉備中央町役場協働推進課』さんから、農泊事業のお声掛けをいただいたことですね。その時、私たちが住む吉備中央町の人口は毎年200人近く減少していることを知り、もっと町の良さを知っていただき、交流人口、関係人口を増やしたい、そして移住者を増やしたいという思いが強くなりました。そこで、新しく発足された『吉備中央町農林漁家民宿推進協議会』に加入したんです。当時は8軒からのスタートでしたね。

まずは学生をターゲットに“教育旅行”の誘致を始めました。「この町の良さが、学生から親世代へと伝わり、ご家族連れで再度来てもらえれば」と考えたんです。その狙いは徐々に成果として現れ、現在、吉備中央町の農家民宿を訪れてくれる方が増えています。本当に嬉しいです。

#### Q2 教育旅行に関して感じたことは？

協議会全体で200人程度の学生さんを受け入れたこともありますが、私たちはいつも「おじいちゃん、おばあちゃんの家へ孫が帰ってきた」という思いで接しています。田植え体験をしている時の彼らの笑顔に嬉しくなったり、後日、田植え体験のお米を送るとお礼の手紙が返ってきたりと、素敵なこと、誇りに思えることが多いです。気をつけることとしては、農作業で怪我をさせないことでしょうか。学生さんが帰る際、涙を流して別れを惜しんでくれると、大変なことがあっても「報われた」「心から交流できた」と思えます。

#### Q3 PRはどのようにされていますか？

そうですね、宿を運営する側もそうなのですが、宿を探す側もインターネットが中心になっていて、そこへの適応がアピールにはとても重要だと思っています。実際、ホームページからの問い合わせも増えています。私たちの協議会では高齢者が多いため、吉備中央町協働推進課に事務局を受け持ってもらい、『きびっちゅ』というホームページの作成をはじめ、更新作業に至るまでインターネット対応のすべてをお願いしています。宿泊希望者からの問い合わせへの対応、意向に添った農家民宿の紹介までおこなってくれていますので本当に助かります。

また、協議会のパンフレット作成など私たちだけでは難しい広報的な作業も担ってくださっていますので有難いと思っています。

#### Q4 外国人宿泊者への対応はいかがですか？

外国人の宿泊者に対しても、躊躇することはないですね。ふれあうことで知らぬ土地や国への知識や見識が、大きく広がりますからね。外国語を話せないことでコミュニケーションを心配する方もいますが、そこは身振り手振りで何とかできます(笑)。最近では、台湾や中国の方も英語では会話できるという人が多いので、多言語対応できなくても大丈夫だと思います。



先進地視察会で説明されている難波さん(中央奥)



ピザ焼き体験を実演。石窯で作るピザは絶品



今では珍しいかまど。温もりが伝わる風景です。



### 岡山農家民宿先進地視察会② 農家民宿「みっちゃん家」

#### Q1 農林漁家民宿を始めたきっかけはなんですか？

町役場の方が「是非」と薦めてくれたのが農家民宿の始まりです。けれど当初は、あまり乗り気ではなかったんです。というのも、開業するにも、「開業後も面倒なことが多いのではないかと不安だったからです。しかし、役場ご担当者の熱心な説明を何度か伺っているうちに「話を信じて民宿にチャレンジしてみよう」と考えが変わりました。

実際に開業してみると「人と話すことで、こんなにも幸せをもらえるのだ」ということを知りました。もし、農家民宿をしていなければもったいない人生を送っていたと思います。そして今は、お客様に喜んでいただくための準備をする忙しい毎日が、とても充実しています。

#### Q2 農林漁家民宿をはじめた良かったと思うことは？

うちでは、旅行者以外に施設で生活する子どもたちを週末に預かることがあります。そんな日は食事を子どもたちと一緒につくったりするのですが、子どもたちは普段食べない野菜料理をおかしくしてくれるんですよ。その元気を自分が見ながら働けること、私は喜びを感じます。そして、様々な事情で自家に帰れない子どもの「癒し」になればと常々思っています。

この活動に関しては“仕事”というより、「子どもたちのために役に立ちたい」という思いの方が強いです。これからも続けていきたいですね。

#### Q3 開業までの費用は？

開業にあたり、家全体の壁紙の張替えと汲み取り式トイレの改築をおこないました。費用をかけたのはそれくらいでしょうか。うちは古民家ということもあり、細かい補修は必要だったのですが、それ以外はできるだけ自分たちで対処しました。

#### Q4 体験を提供することで大変なところはありますか？

農業体験などは体力勝負的な部分があります。ですから無理しすぎないで、「準備が楽しい」と思えるレベルで頑張ることを心掛けています。お客様の前で息が切れてしまうと、逆に心配をさせていただきますから(笑)。

また、農業体験が難しい時は、逆に心をかけて別メニューを考えて対応します。例えば『餅つき体験』などですね。変更しても、説明と工夫があればお客様に十分楽しんでいただけると思います。

これから農家民宿を始める人がいたら「苦しまない程度に頑張ること、自分も楽しむことが、続けていくコツ」だと伝えたいですね。私の場合は準備や作業が楽しいから続けているのかも知れません。

体験以外でいうと、お出しする食事と同じ感覚ですね。開業した頃は、おもてなしという意味で豪華なお肉を用意するなど、食材への工夫をアレコレ考えていましたが、お客様が一番喜ばれたのは地元で採れた野菜等でした(笑)。だから私たちが普段食べているものこそ「お客様のニーズに応えられる」のだと思います。



いつも美しい花に囲まれている『みっちゃん家』



視察会での調理風景。温かな料理も並んだ。



素敵なリース作り体験も人気だそうです。



共同調理も余裕の広いキッチン。



我が家のように寛げるダイニング。



### 岡山農家民宿先進地視察会③ 農家民宿「竹修行」

#### Q1 農林漁家民宿を始めたきっかけはなんですか？

私たちの農家民宿の始まりは、一般的な農泊施設とは異なり、英語が学べる“村”でした。夫が企画した施設のコンセプトは「日本での留学体験」というもので、外国人を宿に招いて常駐してもらい、外国へ行く前に英語に慣れ親しみ、使えるようになりた日本人の方と交流してもらった場でした。

英語を学ぶには「日帰りでは難しいだろう」ということから民宿化し、オープンしました。しかし、コロナ禍の影響で外国人を迎え入れる体制が整わず、英語村は一度休業し、日本人に田舎体験を提供するスタイルに変更しました。

ですから現在は、ファミリー向けの農家民宿として周辺にある竹を使って『竹釣り』や『水鉄砲』を作って遊べる体験イベントなどを提供しています。また、インスタ映えするような写真が撮れる場を用意していますので、ご家族連れに好評をいただいています。

#### Q2 外国人に対する対応は？

実は私たち、英語がまったく話せなくて対応も身振り手振りが中心でした。それではダメだと思い、自らコミュニケーション・ボードを作るなど、独自の工夫を重ねてお互いの気持ちが汲み取れるようになりましたね。

あと“外国人とふれあう時間を増やす”こと、そして、“自分たちの負担軽減を図る”という2つの理由から、農泊施設の修繕作業に参加してもらおうようにしました。ずと、意外にもこのアイデアが好評で、その後は外国人の方たちに遠慮せず、作業にもお願いをすることが増えました。結果として、農家民宿経営の手法にも広がりが見られたと感じています。

#### Q3 周辺住民の方の反応は？

私たちは他地域から来た移住者です。それだけでも、地元の方たちに受け入れていただけるか分からないのに、さらに「外国人を誘致して留学施設を作りたい」なんて言えば、反発を受けるのではないかと不安でした。だからこそ、地域の祭りにも外国人と一緒に積極的に参加するなど、受け入れてもらうための行動を心掛けましたね。そうして徐々にですが、地域の人たちと馴染み始めました。

今では地域の方から、うちに来ている外国人に話しかけてくださることも増え、「認められたのかなあ」と喜んでいます。また、外国人の皆さんも日本の田舎の伝統的な行事に参加できたことが、とても嬉しいようです。



餃子アート体験の実演風景



説明に熱が入る木田さん(中央奥)



視察会での風景。参加者も真剣に耳を傾ける。



ゆったり風景を堪能できる“スカイテーブル”。